

その いずみの園だより 52

vol.

2011.8.30

夏季号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、
いつまでも残る。その中で最も大きいものは
愛である。 コリントの信仰への手紙 I13:13

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
介護保険総合ケアセンターいずみの園

基本理念

神と人ともに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
<http://www.izuminosono.jp> E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

ISO9001 認証取得



2002年3月26日
高齢者介護及び
リハビリテーションサービス



グループホーム ベテルハウス

中津発・連立四次方程式



介護保険総合ケアセンター
いずみの園

施設長
富永 健司

社会福祉法人九州キリスト教
社会福祉事業団常務理事

介護保険が施行されて10年が経過した。「保険あつてサービスなし」とならないよう国は規制緩和(民間参入)によってサービスの量的大幅な拡大を図った。サービス受給者は現在、400万人を超え、金額(予算)にして3兆円から8兆円の規模となっている。介護保険は「自立支援」「利用者本位」「社会保険方式」をベースとし、要介護者の在宅生活を重視した。

しかし実際は、施設志向の流れは一向に止まらず、調査によると施設待機者は全国で42万人を数えるという。住み慣れた自宅、地域で暮らしたいという高齢者の本音がどうして実現できないのか、そこで生まれたのが「地域包括ケアシステム」である。国の第5期介護保険事業計画(2012年~2014年)は地域包括ケアシステムを中心として、日常生活圏域(中学校校区)の新しい地域のコミュニティづくりを指し示した。『住まい』『介護』『医療』『予防』『生活支援サービス』を24時間切れ目なく、包括的、継続的に提供し在宅生活を支えるというものである。

そのポイントは自助、互助、共助、公助の見直しと強化である。一人ひとりの支援策を充実させ、活発な地域住民活動を支援し、住民が支えあう自助、互助の新しいコミュニティを構築。施設・事業所も地域の一員としての役割を自覚し、得意とする24時間365日の支援体制を惜しみなく地域に提供する。市は介護保険者として多様な福祉ニーズにしっかりと応え、行政の横並びを気にせず、地域を意識した独自のサービスシステムを創りあげる。

この7月30日、31日両日、中津発第7回地域密着型福祉全国セミナーが『よろうち(寄り合つての意) 生きる・福祉の里づくりのススメ』と題して中津で開催された。900人を超える参加者があったが、全国28都道府県から来た施設関係者は中津方式に感動したと言いき、地域住民は自分たちの地域福祉社会づくりに確かなものを感じた。地域住民と社協、行政、事業所の中津発・連立四次方程式が全国に発信された。

新法人役員が決まりました

8月5日(金)に社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団の第2回理事会・評議員会が開催されました。

今回は理事・監事・評議員の全員の任期が満了するので、全員の再任について選任・同意がなされ、また、理事会では理事の互選により多田一三理事長が再任されました。その後、常務理事に富永健司理事が再度委嘱され、今後2年間の法人役員体制が決まりました。

任期は、理事・監事2011年9月6日～2013年9月5日
評議員2011年8月18日～2013年8月17日
以下、役員等名簿です。(敬称略) (法人本部事務局)

理事



滝口 真 廣安慎太郎 橋本 高幸 齊藤 昭夫



島田 晋 東島 勇気 河村 賢吾

- 監事/末瀬 昌和 山口 貞嘉
- 評議員/多田 一三 富永 健司 齊藤 昭夫 橋本 高幸
- 廣安慎太郎 袖潤三枝子 滝口 真 多田 一三
- 大継 徹朗 小西美智子 東島 勇気 木村 野村
- 江口 敏一 森分 直樹 河村 賢吾 野村 野村
- 出納 皓雄 田邊 久伍 島田 晋 高幸 玲子 武夫 一美

理事長



多田 一三

常務理事



富永 健司

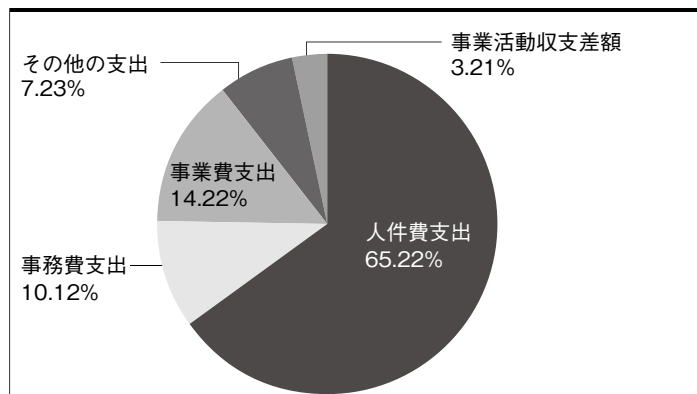
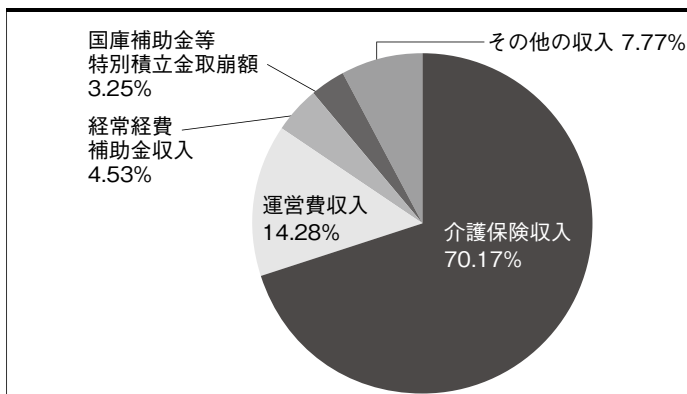
2010年度決算の状況

2011年5月27日第1回理事会承認

法人全体の事業活動収支の状況

(総務部 総務課)

○年間収入額 1,665,988千円 ○年間支出額 1,612,580千円 ○当期事業活動収支差額 53,408千円



人事関係

2011年4月1日以降

- 1 昇格
 - 5月1日付
有隅たまき 在宅サービス事業部訪問看護課 主任
- 2 異動 役職者
 - 5月1日付
佐藤 弘美 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれんど館) 主任
- 3 異動 一般職
 - 5月1日付
中村香代子 ケアハウス事業部ケアマンション聖愛ホーム 介護員
田中 洋美 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれあい館) 介護員
馬場 末子 在宅サービス事業部訪問看護課 看護師
瀬崎 博司 在宅サービス事業部寄り合いセンターいずみ 介護員
中山しおり 特養事業部介護課 介護員
 - 7月1日付
渡辺 順子 在宅サービス事業部中津市地域包括支援センター 介護支援専門員
- 4 新採用
 - 4月18日付
樋口 貴子 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれあい館) 介護員
 - 5月1日付
河野かおり 総務部総務課 事務員
 - 7月1日付
椋澤亜衣子 在宅サービス事業部中津市地域包括支援センター 社会福祉士
牧尾 寿子 在宅サービス事業部かきぜグループホーム 介護員
 - 7月20日付
上畑美佐江 在宅サービス事業部デイサービスセンターかきぜ(ピーター) 指導員
 - 8月1日付
外松 奈美 特養事業部看護課 看護師
森 智弘 特養事業部看護課 看護師
 - 8月8日付
山田 美沙 特養事業部介護課 介護員
 - 8月10日付
山中 順子 総務部いずみの森 介護員

(以上8月10日まで)

厚労省室長を囲んでの 介護保険制度研修会開催

当施設では24時間巡回型訪問介護サービスに関して厚労省のモデル事業を行っているが、その状況の見学と7月30日の全国セミナーのゲストスピーカーとして中津市に来られた機会を捉え、7月29日の17時から、厚労省老健局千田透介護保険指導室長を囲んで35名の職員と研修会を実施しました。2時間余という限られた時間で、介護保険を巡る今日的課題や施設・在宅事業所への期待などについて説明をいただき、ケアマネジャーや訪問介護の第一線の職員と意見交換しました。

介護報酬改定のことはまだ方向性が見えない状況の下でしたが、現場の要望の一部を聞いてもらい、制度の変遷やエビデンスの必要性など、広範囲にご説明をいただきました。

また、多くの質問にも丁寧にお答えいただき、われわれ職員の仕事を考えた時、多くの方々及び事業所と連携を行い、地域包括ケアを基盤とし、意識していくことが大切であるとの思いを強くしました。

大変勉強になり、ありがとうございました。
(経営企画室)



第7回地域密着型福祉全国セミナーが開催されました

7月30、31日に標記セミナーが中津市で開催され、全国各地から約900名が参加しました。セミナーは第一回目が中津市で開催され、今回は7回目です。福澤諭吉にちなんで「福祉の里づくりのススメ」をテーマに、新員中津市長の歓迎挨拶のあと、大森彌東大名誉教授（厚労省社会保障審議会会長）の基調講演「地域でケアするということ」をはじめ、当園富永施設長（実行委員会副委員長）や厚労省老健局千田室長、大分県永松福祉保健部長、中津市鯨井副市長など各界の方が、高齢・障がい・子どもが地域において暮らしやすい里をいかにつくっていくかについて、2日間わたって全国の事例報告に基づき討議が行われました。

児童クラブの生徒さんたちが アルバイトの生徒さん

「いずみの園児童クラブピーター」では、夏季休暇時に市内にある児童養護施設の清浄園から3名の高校生がアルバイトにきています。

「ピーター」では、今年度45名の児童が登録し、保護者が勤務などで自宅にいない時間をすくとしていきます。7月21日から夏休みに入り、一日預かりを開始していました。朝から児童が来園し、宿題をしたり、水遊びなどをして過ごしています。

アルバイトにくる清浄園の高校生たちも児童と共に外で一緒に遊んだり、宿題を見てあげたりしながら働いてくれています。児童も「おねえちゃん」と呼び、アルバイトの生徒さんと共に過ごす時間を楽しみにしているようです。



長い夏休みの期間ですが、アルバイト高校生などと協力して、児童が安全でたくさんのお出かけができる夏休みとなるように、応援していきます。

1日目



介護保険サービスセンター
主任 東 久美

パネルディスカッション 『誰もが24時間安心して暮らせるための包括的ケアとは？』の パネラーとして参加して

「独居、認知症であっても、最期まで本人の意向に沿った在宅生活が行える事例を基に、地域住民、介護保険サービス、有償サービス等とどのように連携を図り、その方の生活支援が行われたかの事例報告を行いました。」

ご本人から見た「社会」とは何かを考えた場合、既存の介護サービスのみでは充足できず、地域、医療、有償サービスなど、多様な主体が共同して地域基盤を作り、その中で介護サービスが活かされるのではと思います。

今回のセッションでの目的として、地域づくりや専門職の養成が求められ、今後、更に生活支援に視点をおいた地域包括的ケアの「中津版」実現に向け、住民や専門職と共に実践していきたいとの思いを新たにしました。

2日目



特養事業部
部長 岩崎 深雪

第1分科会『認知症と共に暮らす』にスピーカーとして参加して

認知症があっても、地域の中で生活の主体者として生きていくためには住民は住民として、介護保険サービス事業所は事業所として、専門職は専門職としての力を発揮すること、連携することが重要であると思えました。どんなサービスを提供する場合も、本人の主体性を大事にし、家族地域と係わりや関係性を深め、それぞれが対象者にとって何が今一番必要であるかを話し合いサポートしていくことが大事であると思います。

分科会での報告者のDVDを見て、参加者の方が涙する場面もあり、感動に包まれた分科会でした。

2日目



在宅サービス事業部
部長 熊井カホル

第2分科会『地域包括ケアシステムの取り組み』について発表者として参加して

「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていくために」24時間365日在宅生活を支える為に取り組んでいるいずみの園の三つの事業を発表しました。

まず夜間対応型訪問介護「いずみの園コールセンター」では24時間の緊急時の対応と定期巡回で自宅が繋がっている安心感、また、かきゼサポートセンターでは高齢者・障がい者・児童がデイサービスを中心に多世代交流が図られている様子、さらに、小規模多機能居宅介護では「通い・泊まり・訪問」の機能で柔軟に支える取り組みを発表しました。

今後、第5期介護保険計画で掲げられている「医療・介護・予防・住まい・生活支援等」のサービスが24時間切れ目なく、ご利用者に提供出来る必要があると強く感じました。また、多世代・地域住民の方々が安心して暮らせるためには地域の方々や専門職と協力・連携し、実状に合った支援体制を作り上げていくことが強調されました。



いずみの園広場

在宅ご利用者の声



シニアレジデンスいずみの森

ご利用者 石原 信男様

思い起こせばこのいずみの森を終の棲家と定めて早くも四年半。今私たちの選択が正しかったことを実感しています。パウロ館（いずみの森管理棟）から頂いた印刷物を手にしました。原作者が不詳の詩『親愛なる子供たちへ』でした。一読して感動しました。今この詩の心を頂いて、拙い詩を作り、投稿に代えさせて頂きます。

『小さなお願い』

作詩 石原 信男

私たち老人は、やがて未知の世界に旅立つでしょう
例えその行き先が真つ暗闇でも、
定めなら行くしかないのです
でもやっぱり不安
不安な心をとり除く助けは一つ
いずみの園の皆さんの
優しい笑顔があれば良い
その優しさが欲しいだけ
だからお願いもう少しだけ
私の力になって欲しい
どうか神様
私の小さなお願い叶えてください
私の笑顔を奪わないで下さい



在宅ご利用者ご家族の声



24時間地域巡回型
訪問介護サービスモデル事業

川島鈴子様ご家族 川島 勝己様

88歳になる母が転倒して骨折、3ヶ月の入院をしました。
退院後のことを心配していると、ケアマネージャーの方からモデル事業の話聞き、利用させて頂くことにしました。

今までは、日に1回のヘルパーさんの訪問でしたので、夜間のことが心配でしたが、モデル事業利用後は、日に3回の訪問をして頂き、また端末機の設置で、コールボタンで24時間サポートもして頂き、利用する家族にとって、とても心強く助かっています。

モデル事業を利用して頂いてからは、家族の心配も減りたいへん助かっています。

このモデル事業は2012年3月31日までとなっていますが、利用者や家族が安心して在宅生活が送れるようにモデル事業が構築されればと思います。

最後に「いずみの園」ケアマネージャーさんには、適切なアドバイスを頂きとても助かっています。ヘルパーさんには心温まる介護をして頂きとても感謝しています。



かきゼグループホーム・寄り合いセンターいずみ 外部評価受審

かきゼグループホームけやき 主任 友清 賢



かきゼグループホームや寄り合いセンターいずみは、介護保険制度の中では、地域密着型サービスという位置づけになります。その中で1年に1度、外部評価という第三者機関からの審査を受ける必要があります。約2か月前から準備が始まり、入居者家族へのアンケート調査や55項目からなる自己評価を実施し、審査当日は朝から夕方まで1日かけてじっくり審査を受けました。幸いにも開設1年目の施設にしては健全に運営できていると高い評価を頂きました。中でも、スタッフの園に掲げる理念に基づいた意識や地域との密着な交流関係が評価されました。今後も、地域の福祉拠点としての役割を担い、地域と共に歩むことができるよう、スタッフ一同自己研鑽に励みたいと考えています。